

# 地域のできこと

R2.10

## 高山村にてワインぶどうの管理機械を導入しました！

高山村におけるワインぶどう栽培面積は現在 55ha（成園、令和2年現在）となっており、盛んに生産が行われています。しかし、ワインぶどうの栽培方式は生食と異なり、垣根仕立てのため日影が無く、特に摘心作業は夏の炎天下のもとで行われます。従って乗用の専用機械を持たない生産者はエンジン・電気駆動のトリマーを使用するため非常に重労働となっています。

そこで、高山村のワインぶどう生産者2戸と1法人で組織される信州高山スマート・ヴィティカルチャーでは、強い農業・担い手づくり総合支援交付事業（地域担い手育成支援タイプ）を活用して乗用のトリマーを導入しました。

導入したのはイタリアのマルチワン社のマルチワン 5.3K（25馬力）をベースに、ブドウ畑用トリマーのアタッチメントを付けたものです。マルチワン社の製品は文字通りマルチに作業機械を付けられるようになっており、他にも除草機や防除機、除雪機など1台で多用途の使い方ができます。また、中折れ構造（写真1）により小回りが利くため、園地内で旋回しやすくなっています。

導入した生産者の園地では管理作業時間が従来の1/5になり、作業の負担感が減ったとともに、より広大な面積を適期に作業できると満足気でした。



写真1 小回りの利く中折れ構造



写真2 導入した機械による摘心作業の様子